

自らのがん生還記を出版

大久保さん 19日に記念講演会

がんを克服した経験者や治療中のがん患者、その家族などをつなぐ支援交流サイト「5years (ファイヤーズ)」を運営する代表の大久保淳一さん(51) 茅野市宮川出身、東京・港区が闘病体験をつづった「いのちのスタートライン」を出版した。定価1500円(税別)。

大久保さんは、外資系投資銀行に勤務中の2007年、42歳の時に最終ステージの精巣(こう丸)がんを発症、肺線維症の合併症で5年生存率20%以下と宣告された。歩くこともままならない中、過酷な闘病とリハビリで13年のサロマ湖100キロウルトラマラソンで7年ぶりの完走。今年6月28日の同大会で悲願の自己新記録、その姿は闘病生活を送る多く

の患者たちの生きる希望になつている。

同書は「自分の言葉

で書いてみないか」と大久保さんの背中を押してくれた雑誌記者の一言で13年12月から執筆に着手。出版までには至らなかったが、その後、講談社の編集者に送り読んでもらい、構成をしっかりと練り上げ出版にこぎ着けた。大久保さんは「まっとうに生きていても落とし穴に落ちたり、真暗なトンネルに入ってしまうこともある。しかし、人生にはいつても、何度でもチャンス

がある。希望さえ失わなければ必ず乗り越えられる」と話す。

今年2月、あえて自分自身が嫌いな言葉という「5年生存率」をタイトルに「ファイヤーズ」のサイトを立ち上げた。闘病中、病気を乗り越え社会に戻った人たちの情報を探したが見つからなかった。壮絶な闘病生活、死と、ネガティブで暗い情報はかり。自分と同じ境遇を経験した者の社会への恩返し」と元気に社会に戻った人などから情報を寄せ

た。「自分が闘病中に欲しかった情報が得られるサイトを作りたい。それが生かされた者の社会への恩返し」と元気に社会に戻った人などから情報を寄せ

らる。希望さえ失わなければ必ず乗り越えられる」と話す。

64人など390人。公開質問「みんなの広場」などくじけそうない日々を送っている人たちを励まし、有益な情報で生きる希望を与え、孤独を癒やす。

郷里での6日の八ヶ岳縄文の里マラソン大会でも自己記録更新、次の目標は11月23日(月)祝日の栃木県大田原でのフルマラソンの記録更新。自身の記録は病前3時間25分56秒(04年)、病後3時間57分49秒(14年)。「サイト登録者を年内2千人、将来的には1万人、10万人規模



がん生還記「いのちのスタートライン」を発売したファイヤーズ代表の大久保さん

として社会にインパクトを与える社会事業、社会企業に育て、多くの人を勇気づけたい」と話す。目標はさらに高みを目指す。詳しくはファイヤーズ(ホームページ <http://5years.org>、メール info@5years.org)。

19日(土) 午後3時から岡谷市、等原書店本店2階で「命のスタートライン」出版記念講演会「人生には何度でもチャンスがある」を開く。聴講無料。問い合わせは同書店(23・5070)へ。